# No. **13**

平成25年8月発行

## 新潟市南区 農業振興公社だより

|編集·発行

公益社団法人 新潟市南区農業振興公社 〒950-1292 新潟市南区白根1235 TEL·FAX 372-5024 E-mail:kousya-shirone@beach.ocn.ne.jp

#### 

# 農業活性化研究と

農業活性化研究センターが6月28日にオープンしました。南区東笠巻新田地内に設置された同センターは、農産物の付加価値向上、ブランド化や6次産業化、農商工連携などを目的として建設されました。

施設は研究棟と試験栽培エリアに分かれ、研究棟には、事務室、研修室や会議室のほかに、土壌分析室、培地調整室、培養試験を行うクリーンルーム、食味調査室や実験室などが設置されています。研修室では、農業・食品産業関係者向けのセミナーが数多く開催されます。

試験栽培エリアは、実証温室、作業ハウス、育苗ハウス、露地ほ場、堆肥舎、用土置場などがあり、栽培技術の試験研究や先進技術の実証栽培などが行われます。

この施設の大きな特徴は、新潟IPC財団から3人の職員が派遣されており、食品開発や加工、マーケティングのスペシャリストが、個別の相談に応じます。がんばる農業者の研究・開発から販路拡大までを応援する体制が整いました。あんなことや、こんなことを考えている農業者のみなさん、お気軽にご相談ください。



新潟市農業活性化研究センター TEL 025-362-0151

明究センターがオープン

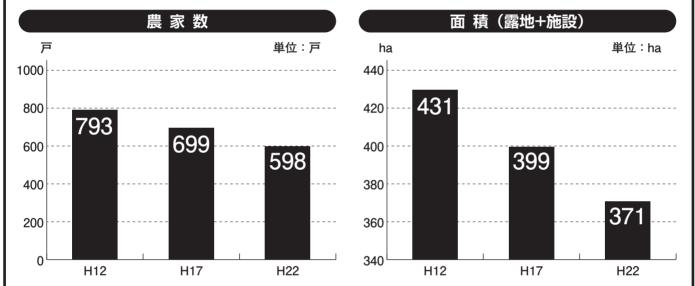
# 県下一の果樹産地をどうけ

公社では、南区から「果樹産地活性化総合対策事業」を受託し、果樹産地の活性化に取り組むことになり、6月から検討委員会を発足しています。これは、果樹農家の高齢化、担い手不足、栽培地面積の減少及び廃園の増加といった果樹農家の直面している問題に、公社が農業者や関係機関・団体と連携

して対応策を検討するものです。具体的には樹園地の情報を収集し、新規就農者や規模拡大希望農家に樹園地移動を推進することや、果樹作業の労働力支援を有償で行う農作業お手伝いさん事業などを検討しています。26年度から公社で事業を展開する予定です。

#### 果樹農家数・樹園地面積の推移

資料:農業センサス



平成12年から平成22年までの10年間で農家数は195戸(14.4%) の減少、面積は60ha (13.9%) の減少となっており、県下一の果樹産地である南区の衰退は著しいものがあります。



検討委員会はJA果樹部 会役員や農業委員、農業 関係機関・団体で構成。第 1回会議は4月28日に、第 2回会議は6月26日に開催しました。26年1月まで に実施案を作成する予定 です。

# つって守り・維持するのか



#### 規模拡大希望者・新規就農者を支援

樹園地は永年性の作物のため水田と違い、受委託による農地移動が少ない状況となっています。こうしたことから、経営者の高齢化や労働力不足によって、樹木を伐採し、廃園になってしまうといったことが多く見受けられます。

樹園地の受委託を進め、新規就農希望者や規模拡大を目指す農業者に、樹園地情報提供をすることによって、廃園を防ぎ、果樹産地の維持を図ります。

また、新規就農希望者を支援することによって、南 区の定住人口の増加や農村集落の活性化を図ります。

具体的には、アンケート調査や農業委員を通じて 園地情報の収集に努め、公社ホームページなどで情報を提供。また新規就農希望者には、就農までの就 農相談や研修サポートを行い、耕作地の情報提供や 住居の情報提供なども行っていきます。

#### 果樹作業を請け負うお手伝いさんを養成

果樹農家の高齢化や担い手不足に対応して、公 社が農作業お手伝いさんを仲介し、果樹農家の作 業を請け負う「(仮称) 農作業お手伝いさん事業」 の制度化を検討します。

既に果樹農家の多くが、雇用労働力を確保されていますが、将来にわたり安定的に雇用労働力を確保しなければ、経営の維持や規模拡大が進みません。公社が農作業お手伝いさんを雇用することによって、個々の果樹農家で対応していた雇用を、継続的で安定的に行っていこうというものです。

公社が仲介することによって、お手伝いさんの労 災保険加入などに対応することができ、賃金の支 払いなどにも安心感を持ってもらえるものと考えら れます。また、お手伝いさんには、樹園地で請け 負う作業の研修会を実施し、経験を積んでもらう 予定です。

このような対策を総合的に実施することによって、県下に誇る果樹産地の維持・発展を図ります。



#### 新規就農者紹介

## しろねイチゴ部会に新風像

昨年から親元に就農された臼井地区の長谷川俊也さん(写真右)と白根地区の小林 歩さん(写真左)です。二人とも、県内で1年間農業研修をされ、就農と同時にイチゴ栽培を取り入れた複合経営を開始されました。また、二人は歳も近いことから特にイチゴに関してはライバル心を燃やしています。

切磋琢磨している二人の様子を、しろねイチゴ 部会の中野会長は「部会全体の刺激になっている」 と話し、部会加入を大歓迎しています。

それぞれ経営内容は違いますが、二人とも今後 は収益性向上を図るために農地の有効活用と規模 拡大を目指したいと、現在目標に向かって邁進中 です。

#### 南区農業振興公社平成24年度決算報告(単位:千円):

#### ■収入

— * · · ·				
会事		費	1,310	正、特別会員
	業	費	42,205	農用地利用集積事業
負	担	金	1,992	関係機関・団体負担
雑	収	入	1	預金利息
前期繰越金		或金	1,130	前期繰越
合		計	46,638	

#### ■支出

事業費	44,531	農用地利用集積ほか
管理費	1,312	光熱水費、事務費
予備費	0	
合計	45,843	

次年度繰越額795千円 詳しくはホームページをご覧ください。

#### 事務局だより(編集後記)

農業活性化研究センターがオープン。来年には隣接地に農業体験施設「アグリパーク」と「加工支援センター」が整備され、農業の6次産業化の拠点となります◆公社は市の外郭団体のため、市から問題点や改善点の指摘を受けます。会員の確保・増大を求められました◆果樹活性化や資源循環センターなどの事業に取り組み、事業の利用者から公社の応援団として会員になってもらえるよう努力したいと思います。